

# 令和5年度 愛知県高等学校家庭科研究会 研究大会

令和5年11月15日、ウィルあいちにて、令和5年度愛知県高等学校家庭科研究会研究大会を開催し、106名が参加しました。講演は、「古民家DIYリノベーションと二拠点居住の魅力について」と題し、**相山女学園大学生生活科学部生活環境デザイン学科・准教授の阿部順子先生**から住居学について御講演をいただきました。



## 1 はじめに

阿部先生は、1級建築士の免許を持ち、様々な公共事業の評価員、アドバイザーやコンサルタントをされ、大学では建築・インテリア設計、建築史の授業を担当されている。研究者としては、フランスの団地更新事業や住宅問題を専門とされ、近年、銭湯や病院内の家族の空間の研究にも取り組み始めた。2019年秋には、フランス政府研究機関の招聘で日本の銭湯について、パリで講演された。また、文化庁助成事業・名古屋市立大学「なごやヘルスケア・アートネジメント推進プロジェクト」では、外部推進委員として「子どもと家族の療養環境」に関する講座やディスカッションに携わられている。

## 2 キーワード

- ・リノベーションとは、フロア、建物の全体の範囲で、機能としておしゃれにアップデートすること。
- ・リフォームとは、一部の空間（トイレ・浴槽など）の傷んだ部分をアップデートすること。
- ・コンバージョンとは、建物全体を異なる機能に改装すること。（例：銭湯を飲食店にする。住宅をオフィスにする等）
- ・DIYリノベーションとは、プロの手を借りずに自力でリノベーションすること。（セルフリノベーションとも呼ぶ。）
- ・DIY賃貸も、最近では日本でもよく聞かれる。さらに、新しい価値をつけたUR賃貸も、郊外の不人気団地で始まっている。DIYブームは、日本人の住まい方の成熟のあらわれではないかと考えられる。
- ・古民家とは、一般的には建築50年以上経過したものとされているが、明確なものではない。
- ・二拠点居住とは、国交省からも過疎地の急激な衰退をとめるために、推奨されている。
- ・ワーケーション（仕事と休暇を組み合わせた造語）やブレジャー（ビジネスとレジャーを組み合わせた造語）など、観光庁からも働き方や住まい方の新しい在り方が、インターネット環境の整備も含め、推奨されている。

## 3 日本の住宅ストックの諸問題

- ・空き家問題：空き家率は、13%で増える一方。人口減少のスピードの速さと少子化による影響が多い。
- ・超高層マンション：大きな回収費用や取り壊しの難しさにより、長期的維持や管理が困難である。
- ・高経年マンション：住民の高齢化による管理不全とそれによるスラム化。耐震基準を含め住み続けることが困難である。

住宅生産は日本の重要産業であり、新築住宅の所有を国としても奨励してきた。一方で、一巡すると住宅の使い捨てが おこり、空き家が増えた。住宅ストックが蓄積されているということは、SDGs的に空き家を活用していかなければいけない機運がきている。

## 4 古民家DIYリノベと二拠点居住

阿部先生は3年前コロナ禍で息詰まる中、東栄町の観光まちづくり協会の顧問に委嘱されていたこともあり、空き家情報「家いちば」(<https://ieichiba.com>)を探したのがきっかけで、築128年の空き家物件と出会った。決め手は、地元の人の良さ と何よりも空き家の所有者さん親子の素敵さに惹かれたようだ。改修費用は、建物改修・工事費など、なにより不用品の処分には想像以上の費用がかかった。古民家DIYに伴い、いろいろな過程を経て、常に地元に貢献できることがないかと日々考え、不便や不慣れを楽しむことも大切だということを感じている。地元の方との新しい人間関係やその関係の広がりや多くの共助の体験が、自然の中での精神デトックスによる心身のリフレッシュにもなっている。また、先生ご自身の第二の人生が具体化され、安心感を得られている。予想外の領域の経験と人生の学びを感じ、人間関係を作りながら、居心地いい場所で限りある人生の中、常に幸せに貪欲でありたいと感じている。

## 5 おわりに

先生ご自身、空き家の購入に後悔はないが、もし古民家生活に興味があってもあこがれだけで突っ走らず、専門家に相談することも必要である。同じく二拠点居住についても、いきなりではなくそこで過ごすことも考え、慎重に進めることが大切である。同時に10年後20年後を考え、冷静に投資（資金・時間・体力）に見合うリターンとは何かを考えることも大切である。資料にあるQRコードでいろいろご参考にしてください。



※研究発表につきましては、研究紀要に掲載されますので、そちらをご覧ください。